

## 大阪府がん登録における精度向上の取り組み - 大阪がん患者データベース (OCDB) の構築 -

味木 和喜子\* 田中 英夫 津熊 秀明 大島 明

地域がん登録の精度向上のためには、施設で診断・治療した全がん患者を系統的に把握・登録する仕組み、すなわち院内がん登録の果たす役割が大きい。米国においては、米国外科学会によるがん治療施設認定制度の中で、その施設のがん診療をモニターするための院内がん登録の設置が義務付けられており、それが精度の高い地域がん登録を支えている。一方、わが国においては、全国がん・成人病センター協議会加盟施設のように、わが国のがん診療をリードする立場の施設であっても、院内がん登録が十分に機能しているとは限らない。院内がん登録の標準化と普及が急務の課題であり、がん克服戦略研究事業「院内がん登録の標準化とがん予防面での活用に関する研究」班（主任研究者：津熊秀明）では、院内がん登録ソフトを開発し、WEB で提供している。

一方、わが国においては、各診療科が全国臓器がん登録に参加するため、あるいは独自の研究目的のため、その診療科で治療した患者の情報を蓄積している。登録の目的が地域がん登録のそれと異なるため、項目およびその分類方法が地域がん登録に対応しない部分も多いが、罹患者を把握するための情報源としては重要であり、それとの連携を進めていくことが精度向上の近道である。

そこで、大阪では、がん克服戦略研究事業「がん情報の体系化に関する研究」班（主任研究者：山口直人）の助成を得て、将来的に Japanese

Cancer Data Base に展開していくためのモデル研究として、大阪がん患者データベース (Osaka Cancer Data Base, OCDB) の構築を進めている。

図 1 に、大阪がん患者データベース (OCDB) の構想を示した。本研究の主目的は、下記の 3 点である。

がん診療施設における院内がん登録の構築と、これとの連携による地域がん登録の精度向上

地域がん登録からがん診療施設への効率的な予後情報還元

がん医療・がん対策のモニタリング、がん医療の向上に向けた協同調査用データベースの構築

この実現に向けて、現在、下記の 2 本柱で作業を進めている。

### I. 大阪府がん登録への磁気媒体による届出促進

大阪府がん登録との連携機能を持つ院内がん登録用ソフト「がん患者登録システム」の開発・提供・運用

### II. 部位別データベースの構築

全国臓器別がん登録用データ作成機能を持つ部位別ソフトの開発・提供、およびそれを用いた協同データベースへのデータ収集・活用

I については、1999 年 6 月より利用を希望する 28 施設から運用を開始し、2000 年 6 月までに 1,819 件の届出があった。ソフトには、デー

\*大阪府立成人病センター調査部

データの漏れ・矛盾を防止するためのエラーチェック機能が付加されているにもかかわらず、届出データの 32%で中央登録室におけるデータ確認・修正が必要であった。その7割は、作業者の知識・経験不足に基づく部位・組織の分類間違いであった。院内がん登録担当作業者の育成の重要性が再認識された。

II については、在阪の消化管がん主要診療

22 施設・グループに呼びかけ研究会を発足し、胃および大腸がんのデータベース構築を進めている。現時点で、21 施設がソフトの利用を希望し、入力作業を進めている。個人情報保護基本法制定の動きを鑑み、個人識別情報を伴う患者情報の協同データベースを構築するための手続を検討した上で、データの収集作業を開始する予定である。

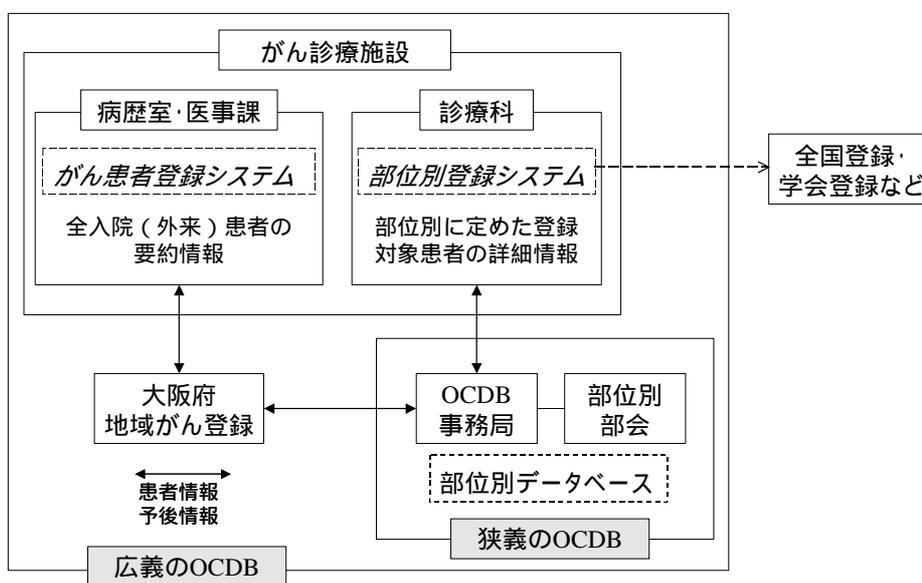


図1. 大阪がん患者データベース(OCDB)構想